



測定随時受付中

ちくりん舎は、行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する市民団体・個人の共同ラボです。

市民放射能監視センター

●共同ラボ & 事務所

〒190-0181

東京都西多摩郡日の出町

大久野 7444

●電話 & FAX

042-519-9378

●電子メール

lab.chikurin@gmail.com

目次

- 韓国市民放射能監視センターのシンポジウムに参加 …… 1
- 深刻な汚染が続く南相馬市 …… 3
- ちくりん舎の測定結果 …… 5
- ちくりん舎会員紹介(5) …… 6
- 会員募集中 …… 6

韓国市民放射能監視センターのシンポジウムに参加しました

韓国市民放射能監視センターが稼働を始めて1年を機にシンポジウムを行いました。福島原発事故や健康被害の状況、汚染実態などを知りたいとのことで、私とフリージャーナリストの木野龍逸（キノリュウ）氏が招かれて訪韓しました。

<ハード・スケジュール>

前回2013年4月に韓国市民放射能監視センター（以下韓国監視センター）の設立総会に招待されて今回は2回目。今回は1泊しかできませんでしたが、今回は2泊ということで少しは余裕があるかと思いきや、前回以上にハード・スケジュールでした。

12月1日夕方にソウルへ入り、韓国監視センター代表のキム・ヘジョンさんと通訳兼コーディネータのカン・ヘジョンさんと食事をしながら今回のシンポや一連の交流会の内容についての打合せです。韓国では昨年7月に発表されたフクイチからの汚染水流出問題で世論が沸騰し、福島周辺7県からの魚の全面禁輸をしています。しかし韓国政府は日本側の要請（圧力?）によりこの禁輸措置を解除しようとしているとのこと。韓国側の参加者は魚の汚染状況に関心がとても高いとのことでした。私もキノリュウさんも魚の汚染状況をメインに話す準備はしていないので若干とまどいました。また、韓国側の参加者は日本の状況を細かくウォッチしていて福島の実況について一般



シンポジウムの様子

的な話は知っている、具体的な生々しい話が知りたいとの厳しい注文でした。後者についてはキノリュウさんも十分自信はあったと思います。私も自分のデータがあるので何とかなるだろうと感じた次第です。

2日の午前10時から昼食も休憩もなしに13時40分まで延長してのシンポジウム。遅い昼食と休憩をとって、ハン・サリム生協に場所を移して、16時~18時過ぎまでその環境委員会の人達を前にプレゼンと懇談会。その後、ハン・サリム生協の環境問題活動家のカン・ユン氏と韓国監視センターのキャンペイナーのカン・オス氏と夕食を取りながら、これまた3時間程度懇談。2人とも30代前半の若者（男性）でとてもすがすがしい印象を持ちました。

翌日3日もまた朝10時~12時まで韓国YWCAの反核グループの皆さんの前でプレゼンと懇談。ということで夕方の飛行機に乗るまでびっしりのスケジュール

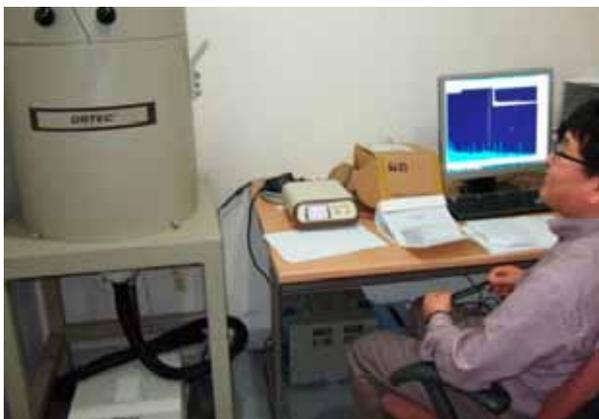
でした。

<原発事故後変わってしまった日本人の感覚>

1日目のシンポジウムは、韓国監視センター所長のイム・ユンゲン氏から監視センターで行ってきた魚の汚染状況についての報告、キム・ヘジョンさんから韓国における食品放射能政策についての報告のあと、私とキノリュウ氏が報告を行いました。その後全体討論という流れです。参加者は約100名ぐらいです。

イム・ユンゲン氏の報告は韓国の市販の魚の放射能汚染調査結果についてのものでした。日本からは禁輸なので魚はロシア産、韓国産などの魚、150検体の測定結果でした。韓国ではタラやサバなどが良く食べられるので、そうしたものを中心に調べたそうです。その結果では7%程度の検体から0.3~0.8ベクレル/Kgのレベルでセシウム137が検出されました。ロシア産のもの、大型スーパー販売のもので検出される比率が高いとの報告でした。0.3~0.8といううちくりん舎で測定している尿から検出されるレベルより少し高いぐらいです。「その精度で調べたら、そりゃ7%ぐらいは出るだろうな、日本の魚もそのくらいの物はざらにあるんじゃないだろうか」「日本で野菜やコメなどもこの精度で調べたら軒並み出そうだ」というのが第1印象でした。

福島原発事故後、私たちの感覚がずれてしまっています。5ベクレルか1ベクレルぐらいの検出限界で出なければ「まあよしとするか」という感覚がありますが、本当は検出されること自体が問題です。いつの間にか日本人の生活は放射性セシウムと共存しているような



韓国市民放射能監視センター

状況だということを改めて感じました。

キム・ヘジョンさんのプレゼンは韓国の食品放射能政策についての批判でした。韓国政府は日本からの魚の禁輸措置の解除を検討している。日本政府は韓国の禁輸措置をWTOに提訴することをちらつかせて、解除の圧力をかけているということです。輸入再開反対、他国並みの放射能汚染検査の要求、放射能検査基準強化、子ども・妊婦へのガイドライン制定、汚染水排出の総量規制をすべき、韓国原発周辺での疫学調査の継続などの主張でした。

私は「政府の汚染実態の隠ぺいと市民による監視」というテーマで、前半は最近の「除染から帰還へ」の方針転換、「放射能被害は大したことない」という新たな安全神話など日本政府の汚染実態の隠ぺいの話をし、後半はちくりん舎の活動として尿検査やリネン布による大気中粉塵の放射能調査の話をしました。

キノリュウ氏はフクイチの汚染水流出の実態と東電による隠ぺい状況、甲状腺がんの多発状況とそれをスクリーニングによるものと固執する学者たちの見解とそれに対する疫学者からの批判、憲法の居住の自由を持ちだして、「20ミリ以下で一人でも帰還したい人がいれば解除する」と避難指定解除に走る政府の実態の紹介などでした。ジャーナリストらしく双方の見解を取材しての事実を紹介する中で「福島原発事故を無かったことにする」かのような現状が良く分かるものでした。

質疑の中で「今回のようなことが起こったら暴動が起きる。福島の人達は何故おとなしいのか。福島県知事選がどうしてあのような結果になるのか」という問いがありました。これにはキノリュウ氏も私もその答えに窮してしまいました。

<「熱い」ものを持っている韓国の人々>

ハン・サリム生協、韓国YWCAは脱核運動（日本語では脱原発のこと）を大変熱心にやっているところで、特に韓国YWCAは福島原発事故以降、脱核運動をメインの課題として取り組んでいるそうです。隔週でソウルの繁華街の南大門（ナンデムン）市場周辺で踊りやスピーチ、チラシ配りなどのキャンペーン活動をやっているとのことで、韓国国内で報道されたニュースの

ビデオを見せてくれました。特に女性陣の歌と踊りでアピールするやり方は大変楽しげで参考になりました。

3カ所での参加者は基本的に女性でした。平日の昼間から夕方の時間設定はお母さん方の参加しやすさを考慮しているとのことでした。

どこでも大歓迎で、それぞれでお土産までいただき帰りが重くて大変でした。(実は初日の夕方、そこしか取れない2時間のフリータイムに南大門市場でお土産用キムチを買っていましたが、それもあって重くて一苦勞でした)。

韓国でも新自由主義的政策で格差拡大が進んでいるということは良く聞きます。宿泊したホテルの隣のビルは韓国金融センターでした。そのビルの玄関前にテントを張り、昼でも零下の厳寒の中で1日中座り込み

を続ける数十人の労働者たちがいました。解雇された労働者たちの座り込みだそうです。地下道にはコンクリートの上に段ボールと毛布で野宿するホームレスがビッシリでした。日本の状況と近いのか、その先を行っているようにも感じました。格差拡大の中で20代が逆に保守化しているとユン氏は言っていました。ひょっとしたら日本もその後を追っているのか。やや暗い気持ちになります。ただ韓国にはユン氏、オス氏のように活動している若者たちがいます。韓国YWCAで参加した女性たちと記念写真を取った時に、イチ、ニのサンでとるポーズはピースサインではなく、右手のこぶしを握って肩のところまで突きあげる「闘争ガンバロー」のポーズでした。こうした韓国の人々と連帯できることに希望を感じました。

(ちくりん舎理事・青木一政)

政府は南相馬市特定避難勧奨地点を一方的に解除 深刻な汚染状況が続く南相馬市

政府は2014年12月28日付けで、南相馬市の特定避難勧奨地点152世帯の指定を一方的に解除してしまいました。特定避難勧奨地点とは年間の積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれのある地域で世帯単位での避難指定をしたもので、避難するにせよ居住を続けるにせよ避難指定地域と同様に政府からの賠償が行われるものです。伊達市、川内村、南相馬市など合計281世帯が指定されていました。

除染から帰還へと方向転換をした政府は避難指定解除を急ぎ、伊達市、川内村は既に2012年末に一方的に解除されてしまいました。今回の指定解除で特定避難勧奨地点は全て解除されてしまうこととなります。3カ月後には政府からの賠償の支払いは打ち切られるので、住民に

福島県南相馬市内と福島県内の土壌汚染と黒い物質		Bq/m ²	Bq/kg	測定日
土 壤	原町区原浪トンネル手前の土(wet)		1,620,000	2014年9月
	小高区川房・お墓の土(wet)--非居住--	658,000	10,600	"
	原町区相馬野馬追会場の土(wet)	131,000	2,270	"
黒い物質	原町区馬場の黒い物質(dry)		994,000	2014年8月
	原町区馬場の黒い物質(wet)		848,000	2014年9月
	小高区桃内駅の黒い物質(dry)--非居住--		467,000	"
	原町区大木戸のショッピングモールの黒い物質(wet)		164,000	"
土 壤	磐越自動車道・五百川PA(郡山市)	136,000	<2,092>	2014年7月
	磐越自動車道・新鶴PA(会津美里町)	55,700	<857>	"
	磐越自動車道・三春PA(田村郡)	41,500	<638>	"
	(磐越自動車道新潟PA)	102	<2>	"
黒い物質	安達郡大玉村・国道4号線玉貫交差点		108,000	2014年8月
	福島市・4号線と115号線の交差点		81,900	"
土 と 砂	国道4号線上り車線・福島県立医大の西側		78,900	2014年8月
	国道4号線下り車線・大玉村・玉貫交差点		35,600	"
除染碎石	原町区馬場・除染後の民家雨樋下の碎石(dry)		53	2014年9月
	原町区馬場・除染後の民家雨樋下の黒ずんだ碎石(dry)		481	"

※放射性セシウム40,000Bq/m²以上は放射線管理区域に相当
 ※放射性セシウム10,000Bq/kg以上は放射性同位元素に相当
 (ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト、河野益近氏の資料より抜粋)